



高齢者・高齢障害者のシーティングシス

高齢者の車いす座位能力分類と対応する座位保持装置

東京都立保健科学大学 木之瀬 隆
国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所 廣瀬 秀行

§ はじめに §

座位保持装置は身体障害者福祉法の補装具交付基準の対象品目に加えられて約9年経過したが、制度の適用範囲は発達障害児・者が中心になっており高齢者や高齢障害者に座位保持装置を用いることは一般化されていない。

欧米の座位保持装置は障害が重度になる前から椅子や車いす上で良い姿勢をとることで身体の変形や褥創を抑え、座位時間を延長し「寝たきり」を防止するねらいがある。国内では、座位保持装置は複雑で難しいものをイメージし、「寝たきり」である重度障害者に座位保持確保を目的とするために、実際の対応が難しい。今回は高齢者の車いす座位能力分類それに対応したモジュラー型座位保持装置と座位保持車いすを解説する。

1. 高齢者の簡易車いす座位能力分類

評価項目は座位姿勢の体幹状況と車いす等操作能力の2方向からなる(表1)。体幹状況と車いす等操作能力はそれぞれ3段階に分類してある。体幹の1レベルは車いす上で安定した良姿勢がとれる。2レベルは短時間で不具合や痛みが生じる。3レベルは座ると頭部が安定しない、又は体幹がすぐに傾くなど車いすに座れない状態である。次に車いす操作能力の評価目的は、姿勢や座り心地が改善されても全体の自立能力が低下する場合があります確認目的もある。この簡易車いす座位能力分類は車いす上で簡易に評価し、座位保持装置の選択ができる。しかし、脊柱変形や褥創等の医学的要素は含まれないので実際の座位保持装置の適合時には詳細な評価を行う。

表1 簡易車いす座位能力分類と車いす操作

I. 車いす座位のレベル	
1. 体幹の垂直位保持が長期的に可能	
2. 体幹の垂直位保持が短期的に可能	
3. 体幹の垂直位保持不能	
II. 車いす操作レベル	
A. 両手で車いす操作可能	
B. 片手で車いす操作可能(片麻痺等)	
C. 車いす操作不能	

2. 高齢者の車いす座位能力分類と対応する座位保持装置

普通型車いすやモジュラー型車いすと組み合わせられるタイプを紹介する。

①車いす座位長期的に可能なレベル

スリングシート普通型車いすで簡易に座位保持を行う場合は車いす専用の座位補助具と位置づけられるクッションを

使用する(表2)。JAYメディカル社のJAYコンピクッションは座面が臀部の形状になっており座面全体で体重を支える。また、ランバー・サポートで腰部を保持しずり下がった姿勢になりにくい(図1①)。対象者は障害のない高齢者から軽度障害者まで適応となるが、円背や脊柱の圧迫骨折等のある高齢者は使用時に医学的なチェックが必要である。また、類似のクッションとしてタカノ社のクッション(図1②)や米国バリライト社の空気調節式ソロクッションがある(図1③)これらの座位補助具の使用で高齢者のずり下がった姿勢を防ぎ抑制帯を外すことができる。使用上の注意点はクッションの厚みで座面が高くなるためにアームレストとフットレストの高さ調整が必要である。

表2 簡易車いす座位能力分類と対応する座位保持装置

車いす座位能力	対応する座位保持装置
体幹の垂直位保持が長期的に可能	JAYコンピクッション、タカノクッション、ソロクッション、AEL座位保持装置(スタンダード)
体幹の垂直位保持が短期的に可能	AEL座位保持装置(国リハタイプ)、リピーター車いす、JAYシステム(デュオクッション+ケアバック)
体幹の垂直位保持が不能	JAYシステム(ケアクッション+ケアバック+ヘッドレスト) REAコンフォート座位保持車いす、クイッキーリクライナー車いす+JAYシステム



①コンピクッション



②タカノクッション



③ソロクッション

図1 座位補助具としての車いすクッション

テム その2

②車いす座位短期的に可能なレベル

米国AEL社の座位保持装置は国産普通型車いすの約90%に適合する。取り付けは普通型車いすのスリングシートを取り外し、座面と背板をのせ高さ調節、奥行き調節を行い対象者と適合をはかる(図2)。障害の程度に合わせてラテラル・サポートやヘッドレスト等のアクセサリー類で対応する。対象者は軽度から中程度の障害者向けである。使用上の注意点は国産の車いすは折り畳み機構がダブル・クロスバーであるために座面高がシートパイプの高さまでしか落とせない。AEL社国リハタイプは片麻痺者の車いす片手片足操作に対して座面前縁のパッドが取り外しでき、背板の角度調整が可能で低床式車いすが適合する。次に、JAY社の座位保持システムは種類が豊富で高齢障害者向けには座にJAYケアアクションと背もたれにJAYケアバックがある(図3)。その他に、リピート車いすはホンダ自動車の労働組合がボランティア事業として車いすに自動車シートを装着するサービス事業品である。



図2 AEL座位保持装置と車いす



図3 JAY座位保持装置と車いす

③車いす座位不能なレベル

スカンジナビアン・モビリティ社のREAコンフォート座位保持車いすは、リクライニング機能とティルト機能(座面と背の角度が一定のまま全体が傾く)が合わせて使用できる(図4)。対象者は変形や拘縮が大きく普通型車いすに座れない場合や、股関節屈曲制限等のある高齢障害者である。リクライニング機能とティルト機能を併用することで離床時間の延長が図れる。車いすのベース部分は自操用と介護用がある。同様の重度者向けとしてクイッキー社のリクライナー車いす等がJAY座位保持システムと合わせて使用できる。在宅障害者の場合、住宅環境や介護者と適合等の確認が必要である。場合によっては屋外は普通型車いすを併用する必要がある。

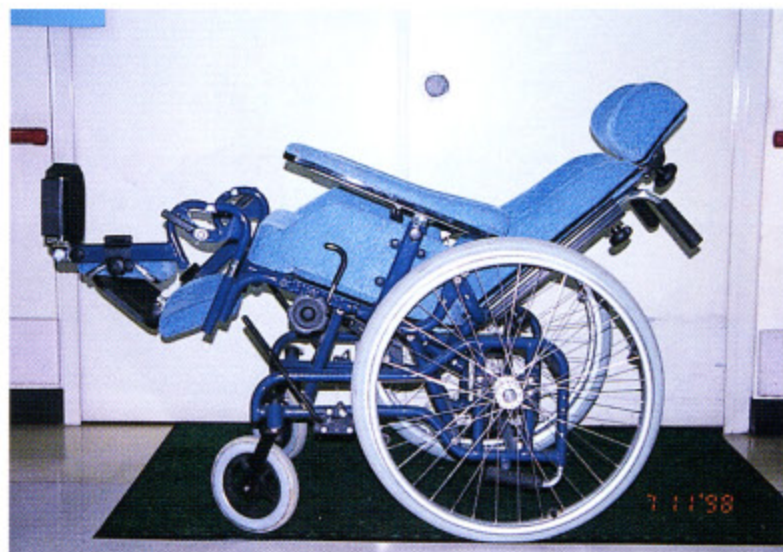


図4 REAコンフォート座位保持車いす

§ まとめ §

紹介した簡易車いす座位能力分類は高齢者の座位能力を簡易に評価することで、座位保持装置の段階付けが容易に行える。また、高齢者の障害が重度化した場合の対応もある程度予測できる。紹介したモジュラー型座位保持装置は、私たちが、臨床評価した範囲である。高齢障害者は状態の急変や障害の進行を考えた場合、仮合わせや製作・適合に長時間をかけるのはリスクが大きく、その場で状況に合わせて調節できるモジュラー型の座位保持装置が望ましい。

